

NTTコミュニケーションズ

# 「交通費精算をなくす」 が新たな時代のスタンダードに

「社員を信用する」という働き方改革

「奇跡体験!アンビリバボー」「テラスハウス」「スカッとジャパン」といった人気テレビ番組を手掛けている映像制作会社大手のイーストグループ。交通費精算業務の効率化のために今年1月に導入したNTTコミュニケーションズの交通費精算不要化サービス「Smart Go」はどのような効果をもたらすのか。

制作：東洋経済ブランドスタジオ

## 多発する交通費精算の負担をどう減らすか

イーストグループは1973年の創業以来、「世界まるごとHOWマッチ」「平成教育委員会」などの長寿番組を制作するなど、テレビ業界で確固たる地位を築いてきた。2010年には持株会社化し、現在は「イースト・グループ・ホールディングス」の事業会社として番組コンテンツ制作事業の「イースト・エンタテインメント」ほか、デジタルメディア

など番組コンテンツ制作事業の「イースト・ファクトリー」、映像制作業界への人材派遣事業の「ウエスト」、タレントマネジメント事業

の「ノースプロダクション」を擁する企業グループを形成している。

同社では業務上、企画立案は本社社内、番組制作は収録スタジオや編集所、ロケは国内外問わず、という社外での仕事環境のため、スタッフたちは日々頻りに多様な交通機関を利用している。そのため、制作部のスタッフたちはレシートやスケジュールをもとに、詳しい用途、日付、経路、金額など多くの項目を入力する負担がかかっており、働き方改革を進めるうえでも、見直しの対象と捉えられていた。

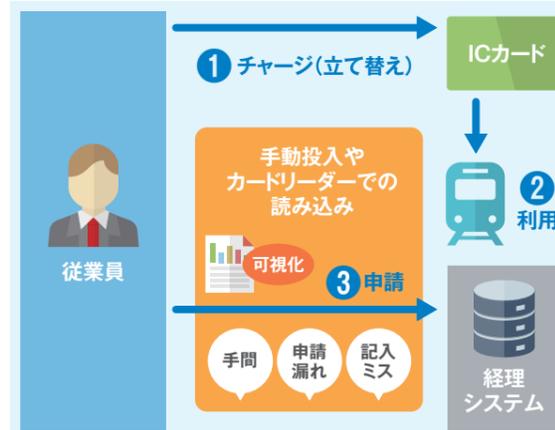
それゆえ、会社側としても業務の効率化を目指し、当初ICカードリーダーの導入を検討したこともあったが、全面的には踏み切れなかった。同社で経営企画を担当している刑部雅人氏は言う。

「交通系のICカードは20件しか記憶できないため、古いデータは順次消えていきま

イースト・グループ・ホールディングス  
執行役員 経営企画部長  
刑部雅人

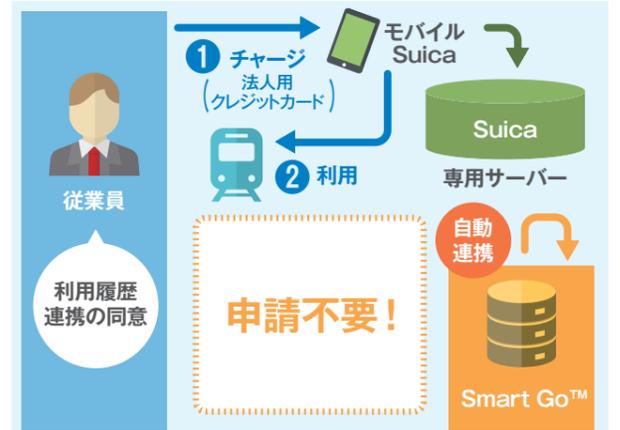
### 「Smart Go™」導入前

少額でも、多くの事務処理やコストが発生。



### 「Smart Go™」+法人用クレジットカード導入後

自動連携で申請を簡素化。法人用クレジットカードを利用すれば、従業員の交通費精算業務はほぼゼロに。



かざすためだけに、スタッフをわざわざ現場から帰社させることもしたくありませんでした。働き方改革の機運が高まる中で、経費精算に時間をかけず、社員たちがコンテンツ制作に集中できる環境を整えることができないものか、と考えていたのです」

## 「精算をなくす」サービスの具体的な効果とは

そうした課題を解決するために本格導入を視野に、今年1月から試験導入したのがNTTコミュニケーションズの「Smart Go」だった。「このサービスの最大の効用は交通費精算を効率化するのではなく、精算自体の作業をなくすことにある」と、本サービスを担当するNTTコミュニケーションズの川田英司氏は語る。

「導入の作業は、モバイルSuicaにコーポレート・カードでチャージするだけ。従業員にとっては交通費の立て替えと申請という精算に必要な一切が不要になり、経理部門は個人への振り込みが不要のうえ振込手数料も削減できます。上長については交通費の個別承認が不要になり、一括承認ができるようになるというメリットもあります」(川田氏)

「もともとフィンテック関連で業務効率化に結び付くツールがないか、いろいろとアンテナを張っていました。コーポレート・カードは管理者のみに渡し

ていましたが、これからはスタッフ全員が恩恵を受けるようなサービスを活用したい。そこで上長のアドバイスをもとにいろいろと比較検討した結果、Smart Goを導入することになったのです」(刑部氏)



# 「交通費精算をなくす」 が新たな時代のスタンダードに

「社員を信用する」という働き方改革

## イースト・グループ・ホールディングス試算(年間)

制作部の  
精算入力に  
要する時間

351時間(約15日)

レシート、スケジュール、  
記憶を頼りに日付・金額の入力

「Smart Go™」導入前

245時間

106時間(約4.5日)

「Smart Go™」導入後

同社ではSmart Goを導入後、確実に大きな効果が期待できるという。

「われわれが独自に試算したところ、もともと制作部では精算入力に1件当たり45秒かかっていた。年間の入力件数をもと

に換算すると入力作業にとられる時間は年351時間。導入後は制作部では交通費精算全体の約70%の作業時間を削減することができ、今は何の番組や案件で使ったかを記入するだけで済むようになります。経理

部においても利用履歴を自動で取得したデータが連動されることでチェック作業が不要になることは言うまでもありません」

### JR東日本と連携する 「Smart GO」ならではの強み

この「Smart Go」は使い勝手の面でも優れている。「JR東日本と連携することで、専用のモバイルSuicaサイトから利用履歴を自動取得できるのですが、その利用が適正か否かを判定する機能があります」と川田氏は語る。その判定基準は、導入企業が独自に詳細な設定をすることが可能となっている。

「モバイルSuicaと連携しているのはNTTグループならではの強みです。駅名が変わった際も安心です。また、これからサービスに追加予定なのですが、自社のERPとデータを連

携することでコストなど番組別のプロジェクト管理をリアルタイムでチェックできることも期待しています。休日や高額の利用など、イレギュラーと判定されるものについても利用を管理できるため、コンプライアンス上問題なく運用できることも心強いですね」

「Smart Go」の導入は何よりもスタッフのためだ、と刑部氏は語る。

「インターネットやスマホの普及で多様化の進むコンテンツ業界で、日夜、視聴者の方々へさまざまな映像コンテンツをお届けしている制作スタッフたちを経営管理の面から支援したい。社内には、正社員、契約社員、業務委託などさまざまな形態で働いている従業員がいますが、それぞれのやり方での

びのびと働いて、すべてのスタッフにコンテンツづくりに集中してもらえるような環境を整備していきたいと考えています」

今、働き方改革の中で生産性の向上が問われているが、NTTコミュニケーションズでは今後、法人プリペイドカードとセットでERPに連携できるサービスの投入も検討しているという。刑部氏もこうしたサービスをきっかけに会社全体の業務効率化に役立てたいと話す。

「これまでもマネジメントにおいて先進的な試みに取り組んできましたが、将来的には煩雑な業務を最適な形で省力化していきたいと考えています。昨今のフィンテックの進展をみると、デジタルツールの力を借りるという可能性は非常に高いのではないでしょ

うか。例えば、コーポレート・カードなどについても管理者だけでなく、従業員全員が使ってこそ、ERPへの自動連携という点で大きなメリットがあるはず。当社の最大の魅力は当社ならではの映像コンテンツの制作能力にあります。当社のクリエイターたち、一人ひとりにクリエイティビティを發揮してもらうために、経営管理は見えざる手となるのは言うまでもありませんが、これまでの固定観念で考えるのではなく、新たな発想と視点で環境を整備していくことが一層必要になってくると考えています」(刑部氏)

本質的な業務以外の作業負担を最小限にする。これが、「令和」時代の経費精算のスタンダードになっていくのだろう。



NTTコミュニケーションズ株式会社  
smartgo-sales@ntt.com

詳細は右のQRコードから▶

